

**WEEKLY SIGNAL**

平成27年10月2日(金) 1293号

**上田八木短資株式会社**

**来週の市場とレート予想**

	10/5(月)	10/6(火)	10/7(水)	10/8(木)	10/9(金)
無担保O/N		0.030% ~ 0.125%			
銀行券	+ 1,300	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 32,700	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	+ 1,000
資金需給	不 31,400	余 2,000	余 1,000	不 1,000	不 1,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 400				共通担保(全店) △ 700
オベスタート	共通担保(全店) + 1,500	短国買入 + 10,000 国債買入 + 4,700			
(日本)	都道府県別預金・現金・貸出金(8月、日銀) 毎月勤労統計(8月、厚労省)	日銀金融政策決定会合(1日目)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁記者会見 マネタリーベースと日銀の取引(9月、日銀) コール市場残高(9月、日銀) 日銀営業毎旬報告(9/30現在) 日銀の対政府取引(9月、日銀) 景気動向指数(8月、内閣府)	金融経済月報(10月、日銀) 機械受注(8月、内閣府) 国際収支(8月、財務省) 対外対内証券売買(前週分、財務省) 景気ウォッチャー調査(9月調査、内閣府)	特定サービス産業動態統計(8月、経産省)
(海外)	米 ISM非製造業景況指数(9月) 米 労働市場情勢指数(9月) 欧 ユーロ圏総合PMI(9月、改定値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(9月、改定値) 欧 ユーロ圏小売売上高(8月) 欧 ユーロ圏財務相会合(ルクセンブルク)	IMF 世界経済見通し 米 貿易収支(8月) 米 サンフランシスコ連銀総裁講演	IMF 世界金融安定性報告 米 MBA住宅ローン申請指数(2日終了週) 米 消費者信用残高(8月)	米 FOMC議事録(9/16・17分) 米 セントルイス連銀総裁講演 米 ミネアポリス連銀総裁講演 米 サンフランシスコ連銀総裁講演 米 新規失業保険申請件数 英 イングランド銀行、金融政策発表 欧 ECB議事要旨	米 輸入物価指数(9月) 米 卸売在庫(8月) 米 アトランタ連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁講演 IMF・世界銀行の年次総会(リマ、11日まで)

**[インターバンク市場]**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.100 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

**<インターバンク>**

当座預金残高は週初、243兆3,100億円であった。その後は2日の法人税・消費税・保険揚げを主因に減少し、週末は240兆5,700億円で越週した。28・29日の無担保コールON物は、前週の流れを引継ぎ0.07%台半ばから後半で取引された。期末初物となる30日はビッドが弱く、0.001~0.002%での出合が中心となり、加重平均金は0.010%となった。10月1・2日は月末以前の金利まで水準が戻り、再び0.07%台半ばから後半での取引となった。ターム物は、期末越えを含めて、目立った動きは見られなかった。1日に公表された日銀短観は、大企業・製造業DIは、+12(前回+15)と3期ぶりに悪化し、新興国経済の減速が影響を及ぼす結果となった。一方、大企業・非製造業DIは、個人消費が伸び悩む中、外国人旅行者の消費が活発なことなどから+25(前回+23)となり、1991年11月以来、およそ24年ぶりの高水準となった。来週の予定は、金融政策決定会合(6・7日)、海外では、FOMC議事録公表(8日)、IMF・世界銀行の年次総会(9-11日)などが挙げられる。

**[オープン市場]**

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.060 ~ 0.080
TDB 3M	△ 0.020 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

**<CP>**

今週の入札発行額は約1兆2,700億円で、期落ち額約2兆3,000億円(金融機関・ABCP除く)から大幅に減少した。期末の有利子負債削減のため、継続発行せず一旦償還させる動きが多く見られた。9月末の市場残高は14兆円台となり、前月比約1兆2000億円減少した。なお前年同月比では14か月連続増加している。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.070%台前半~0.090%台半ばで推移した。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約3,700億円程度となっている。

**<TDB>**

1日に国庫短期証券3M第561回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0110%(前回債△0.0103%)、平均落札レートは△0.0188%(前回債△0.0215%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.03%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週6日に6M、8日に3Mの入札が行われる予定である。

**<レポ>**

足許GCは週初、受渡日が9月末初となり資金調達ニーズが薄いこともあり、△0.50%~△0.10%での出合となった。しかし10月に入ると+0.04台後半~0.05%台とプラス圏での出合へと戻り、その後は短国3M・10年利付債発行等の要因によりレートが上昇し、+0.07%台から+0.08%台後半の出合いとなった。また週末には短国・国債買入オペが合計1兆4700億円オファーされるも、+0.08%近辺での出合となり越週した。SCでも9月末越の取引ではネガティブレートでの出合が多く見られた。5年債は124回債、10年債は325・328・329・339・340回債、20年債は153回債、30年債は47・48回債に引合が多く見られた

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。